

東北メディカル・メガバンク計画の概要

被災地に医療関係人材を派遣して健康調査を実施し、15万人規模の生体試料、健康情報等が収集されたバイオバンクを構築。得られたゲノム情報、健康情報、診療情報等を併せて解析。



被災地住民
(15万人)



・診療情報
・生体試料
(血液等)



最先端研究に携わる意欲の高い医療関係人材が、被災地域において健康調査を実施(一定期間、地域医療に従事)

バイオバンクに生体試料、健康情報、ゲノム情報等を保管

生体試料からゲノム情報等を解読

環境要因、遺伝子等と疾患の関連を明らかにする解析研究を実施

地域医療への貢献

- ・震災の健康影響の検証、健康調査の実施を通じ、被災地の住民の健康不安を解消
- ・意欲の高い医療関係人材が被災地に派遣され、地域医療に貢献

次世代医療の実現

- ・世界でも最大規模で、類を見ない特徴を持つバイオバンクを実現(※)
- ・個人のゲノム情報と解析結果を比較することで、病気の正確な診断や薬の副作用の低減、将来なりやすい病気の予測などの次世代医療を実現